

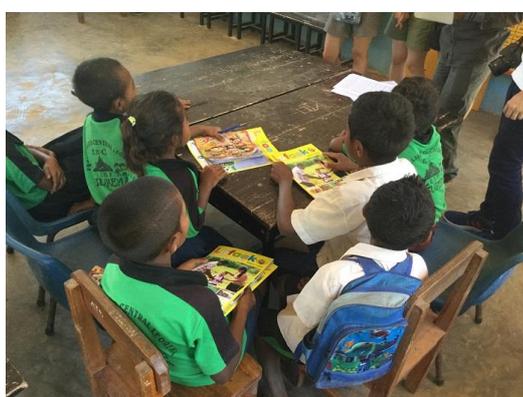
レテフォホに2泊滞在した後、首都のディリで3泊4日を過ごしました。レテフォホに比べて、人も車もはるかに多く、映画館やTIMOR PLAZAというショッピングモールもあります。日本でもお馴染みの、バーガーキングやビアードパパのお店なども多く見られました。思っていたよりも色々なお店があり、発展していることに少し驚きました。レテフォホは、美しく連なる山々に囲まれていましたが、ディリでは透き通る海がとても綺麗でした。

まず私たちは、ディリにあるPeace Winds Japanの事務所を訪問し、焙煎所の見学やカップリングの体験をさせていただきました。カップリングというのは、コーヒーの香りや味を評価するために行います。スプーンでコーヒーをすくい、吸い込むように霧状にして口に入れるのですが、この作業が意外と難しかったです。また、コーヒーの酸味、苦味には柑橘系やベリー系、ナッツ系などたくさんの種類があるということを知りました。焙煎されたばかりのコーヒー豆を食べてみましたが、とても香ばしく美味しかったです。



CARE international Japanの事務所にも訪問し、ラファエックについてなどの説明をしていただきました。ラファエックとは、テトゥン語で書かれた教科書で、東ティモールの多くの人々がテトゥン語を話すのにも関わらず、ポルトガル語で書かれた教科書しかなかったことから作られました。親しみが持てるよう、東ティモールで神聖な動物とされるワニ、テトゥン語でLafaek(ラファエック)が題名としてつけられたそうです。東ティモールの方が作成しているため、東ティモールの人たちがより必要な情報を掲載することができます。

また今回、年に3回行われるラファエックの配布作業に同行させていただけるという、とても貴重な体験をすることができました。先生がきちんと説明しながら、生徒一人一人に丁寧にラファエックを渡していたことが特に印象的でした。同行させていただいて、特に私は道路の整備が必要だと感じました。ラファエックは、東ティモール全国の小学校にバイクやトラックで配布されます。整備されていないガタガタの道を、何時間もの時間をかけて配布する作業はとても大変だと思いました。道路の整備は、ラファエックのためだけでなく、村で育てた作物を都市で売ることができたり、東ティモールが発展していくために必要だと思います。



ディリでは、東ティモールの伝統的な織物であるタイスを作っているエルダさんという方のお話を聞くこともできました。エルダさんは、独立紛争時にはゲリラ部隊に参加しており、インドネシアに連れて行かれたり、旦那さんが刑務所に入れられたり、辛い過去があっても、強く生きているカッコいい女性でした。タイスが国や家族に希望をもたらすことを目指して作り続けているそうです。また、訪れたレジスタンス博物館には、独立紛争の時の資料や映像、遺品などが展示されており、辛く残酷で思わず目を背けたくなるようなものがたくさんありました。辛い過去があっても、明るく、どんどん発展していく東ティモールに心惹かれ、これからも応援していきたいと思いました。



東ティモールでの1週間を通して、教育の大切さを改めて考えさせられました。親の教育レベルが低いと、教育を受けることのメリットを理解することができず、子どもが学校に行かなくてもいいと思ってしまい、どんどん悪い方向に進んでしまいます。教育を受けていないと、コーヒーの売買の話をするときに理解されるのが難しいとピースウィンズ・ジャパンの方がおっしゃっていました。

農家さんは字が書けない、読めないことによって知らずに不公平な取引をさせられてしまうこともあります。他の国からの援助を受けずに、東ティモールの問題を、東ティモールの人たちが自身で解決できるようになるために、教育は絶対に必要だと思いました。

今回学んだことをどう伝えられるか、問題を解決するにはどうしたら良いのか、私たち高校生ができることは限られてしまいますが、大好きな東ティモールの発展のために積極的に活動していきたいと思います。

3年女子